

災害時に孤立する可能性のある集落に関する状況調査結果について

1 要旨・目的

本県における今後の孤立可能性集落への対策を検討するため、県内の状況を調査し、その結果等を取りまとめた。

2 現状・背景

令和6年1月に発生した能登半島地震において、孤立集落の課題が顕在化したことを踏まえ、県内の状況を把握するため、調査を実施したもの。

3 概要

(1) 孤立の定義

地震、風水害等により、集落への道路（四輪自動車で通行可能かを目安）、海上交通によるアクセスが途絶し、人の移動・物資の流通が困難または不可能となる状態

(2) 孤立の条件

ア 集落への全てのアクセス道路の一部区間が、土砂災害警戒区域等に隣接している。

イ 地震による津波・液状化によりアクセス道路や船舶施設が、使用不能となる恐れがある。

(3) 調査対象地域

県内全域

(4) 調査方法

県内の全集落のうち、「(2) 孤立の条件」に該当すると思われる集落を県が抽出し、市町を通じて個々の集落の孤立可能性等について確認

4 調査結果

(1) 県内の孤立可能性集落数

1,114 集落

(2) 市町別の孤立可能性集落数

市町名	全集落数	孤立可能性のある集落数	市町名	全集落数	孤立可能性のある集落数
1 広島市	802	334	13 安芸高田市	313	81
2 呉市	274	142	14 江田島市	137	7
3 竹原市	98	14	15 府中町	16	0
4 三原市	354	32	16 海田町	18	0
5 尾道市	411	111	17 熊野町	9	2
6 福山市	694	78	18 坂町	12	1
7 府中市	166	10	19 安芸太田町	130	21
8 三次市	490	101	20 北広島町	274	29
9 庄原市	512	29	21 大崎上島町	46	11
10 大竹市	50	3	22 世羅町	171	6
11 東広島市	544	63	23 神石高原町	195	12
12 廿日市市	166	27	計	5,882	1,114

※ 集落数とは、農林業センサスにおける農業集落及び漁業センサスにおける漁業集落の合計

(3) 前回の調査結果との比較

ア 前回の調査結果

	国調査 (H25)	県調査 (H28)	今回調査 (R 6)
孤立可能性集落数	764	818	1,114

イ 今回増加した要因の分析

土砂災害警戒区域等の指定が進み、「3 (2) 孤立の条件」のアに該当する箇所が増加したことが、主な要因と考えられる。

【参考】

	H26. 2月時点	R 6. 7月時点
土砂災害警戒区域等指定箇所数	11,287	47,821

5 今後の対応

孤立集落に係る課題については、「能登半島地震を踏まえた被災者支援の強化に向けた地震防災対策検討会」での検討状況や国の検証内容などを踏まえ、具体的な対応を検討するとともに、着手可能な対策から順次、実施していく。

【現在実施している主な取組】

●孤立集落への救援物資の輸送手段の確保

必要な救援物資を速やかに孤立集落へ輸送することができるようにするため、市町・関係機関等と連携・協力し、ドローン等の活用による実証実験を実施

●通信が途絶した孤立集落への通信手段の確保

孤立集落へ衛星通信機器（スターリンク）を速やかに設置し、通信ができるようにするため、市町・関係機関等と連携・協力して、実証実験を実施